

●シリーズ●わがまちの文化財へ23

町指定文化財 木造釈迦如来坐像

もくぞうしゃかによらいざせう

平成22年11月25日指定

この仏像は太平寺に伝わるものです。衣部の線がはっきりと厚めに表現されていて写実的で、肉髻（二段になった頭部の上段部分）の段差が明確であるなどの特徴から、室町時代初期のものと推定されます。寄木造で仏の本来の姿を忠実に再現した丁寧な造り方で、中央の仏師の作と考えられます。太平寺は、もともとは小国の大坪に文中元（一三七二）年に開かれた寺院で、明応10（一五〇一）年に現在の地に移ったとの記録があり、仏像は現在地に移る前に、すでに造られていたと考えられます。台座は、葉脈まできっちり彫られており、鎌倉時代に遡る可能性もあります。また、光背は宝永8（一七一一）年に造りなおしたとの銘が入っています。



●シリーズ●わがまちの文化財へ24

国登録文化財 普光寺観音堂

ふこうじかんのんどう

きやうおおたじんじやうこうしやうがこうほうあんてん
（旧大田尋常高等小学校奉安殿）

平成23年1月26日登録

この建物は、昭和10年に、旧大田尋常高等小学校（現在の
大田小学校の前身）の奉安殿（教育勅語や天皇・皇后の写真を
安置するための建物）として建築されたものです。奉安殿は戦
後のGHQとの覚書によりそのほとんどが壊されていますが、
大田小学校のものは町議会の審議を経て、戦没者追善供養のた
めの観音堂として移築・再利用されることで残りました。

建物の施工者は、地元の石造彫刻の名工として有名であった
小林確郎氏です。ギリシャ建築のドーリア式を思わせる神殿風
建築で、建物に至るアプローチ部分が一部カットされているほ
かは、建築当時の姿をそのまま残しています。激動の時代を地
域の人々の努力と機転で守り抜かれてきた地元の職人による
貴重な遺産として、このたび国登録文化財に登録されました。

